

新潟・馬越遺跡

うまこし

1 所在地 新潟県加茂市大字下条

2 調査期間 一九九八年(平10)七月～十二月、一九九九年八月～十二月

3 発掘機関 加茂市教育委員会

4 調査担当者 伊藤秀和

5 遺跡の種類 集落もしくは官衙関連施設跡

6 遺跡の年代 八世紀～一〇世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

馬越遺跡は、加茂市域の北西、下条川左岸の沖積地に位置する。

遺跡の現況は、一面の水田であり、水田面の標高は約七mを測る。

下条川を挟んだ対岸には

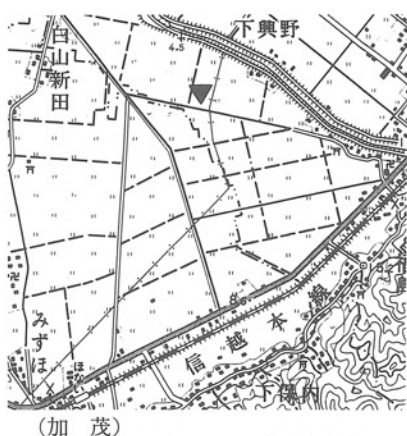
鬼倉遺跡(一〇〇点余りの墨

書土器・皇朝十二銭三枚など

出土)や中沢遺跡など、同

時代の遺跡が多く見られる。

調査は、国道四〇三号線



調査は、国道四〇三号線

バイパス建設工事に伴い、二カ年度をかけ、調査区をⅠ～Ⅳに設定し、約一二〇〇㎡を対象として実施した。

本調査で検出された主な遺構は、多くの掘立柱建物・畝状小溝・溝・井戸・土坑・河川跡などである。注目すべき遺物としては、銚

帯金具(丸柄)・石帯(丸柄)・石製品(分銅?)などがある。墨書土

器も数十点出土しており、「大田」「是人」などが記される。

今回報告する三点の木簡のうち、(1)と(2)はそれぞれ土坑から、(3)

は包含層から出土した。(1)と(2)が出土した土坑は、極めて近い位置

にあり、木簡以外にも、斎串や用途不明の木製品などが出土してい

る。また、両土坑付近には、石帯・緑釉陶器・灰釉陶器が出土する、

し字型に配置された掘立柱建物群や、斎串・舟形木製品が出土した

溝などがある。両土坑とも出土土器から九世紀後半～一〇世紀初め

頃に位置づけられ、(1)と(2)の木簡も同時期と推測される。

8 木簡の釈文・内容

土坑SK六一(仮称)

(1) 「丈部」

「家カ」

「九九九九九カ」

「(286)×21×2 019」

土坑SK二八(仮称)

(2) 「丈部」

包含層

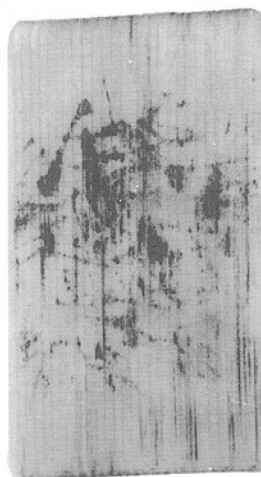
(163)×21×1 019



(1)



(2)



(3)

(1)は、下端を欠損するが、上端は方頭に仕上げ、幅が中程で細くなる形状で、斎串と考えられる。(2)も下端を欠損するが、(1)と同じ形状のものと推測される。(1)(2)とも氏名である「丈部」が明確である他は、解読できない。(1)の「□」^{〔家カ〕}の下は「〜」と、波線状の符号を書いてるように見える。その形状と出土状況から祭祀に関係したものと思われる。「丈部」は、和島村八幡林遺跡出土の郡符木簡の差出人にも見える(本誌第一三号)。

(3)は、矩形を呈した厚みのある完形の木簡である。中央やや上部に「日」の文字が確認され、その周囲にも様々な墨痕が見られるが、



9.5×5.5×5 0.11

(3)

意味不明である。

なお、木簡の釈文については、新潟大学の小林昌二氏・相沢央氏よりご教示いただいた。

(伊藤秀和)